

# 住宅宅地分科会



共働き世帯の考える、  
住宅についての意見について

**Sour ire**

スリール株式会社  
代表取締役 堀江敦子

## スリール株式会社代表取締役 堀江敦子

2010年創業 人材育成事業（女性活躍・DEIコンサル・キャリア教育）

◆内閣府男女共同参画局 専門委員、厚労省イクメンプロジェクト、  
こども家庭庁 行政委員を多数経験

◆キャリアコンサルティング技能士2級

◆立教大学経営学修士 リーダーシップ開発コース 修了

◆ISO 30414リードコンサルタント/アセッサー 取得

◆楽天株式会社にてマーケティングリサーチを担当した後、2010年にスリール株式会社を創業。

◆体験型のワークショップを得意とし、意識が変わり、行動が変化する研修・セミナーを2万人以上へ実施

◆著書に『新・ワーママ入門』『女性活躍から始める人的資本経営』がある。



お茶の水女子大学附属幼稚園～高校出身。ジェンダーフリー・自主自律教育を受ける。中学時代から200名以上のベビーシッター経験や、国内外30施設以上でのボランティア経験から、「健常者の大人の視点」でしか創られていない社会に違和感を抱く。（また、こどもが多様な大人に愛されて、成長できる環境づくりを行っていきたくて強く思う。）  
育児・介護・ハンディキャップがあっても、自分らしく働ける・生きられる社会を目指して、「自分らしいワーク&ライフの実現」をミッションに人材育成の企業を創業。  
4歳の子ども、夫との3人暮らし。東京住まい。

## Mission:自分らしいワーク&ライフの実現

### 女性活躍から始めるサステイナブル経営の支援



#### キャリア自律

#### ダイバーシティ マネジメント

#### 導入企業

- ◆ 仕事と子育ての両立体験プログラム  
ワーク&ライフ・インターン（学生・若手）  
育ボスブートキャンプ（管理職）
- ◆ 企業研修：若手社員キャリア研修、管理職研修、働き方意識改革
- ◆ 学生キャリア教育：大学・行政
- ◆ 明治ホールディングス株式会社
- ◆ 大阪ガス株式会社
- ◆ 株式会社日立システムズ
- ◆ 損害保険ジャパン株式会社
- ◆ パーソルキャリア株式会社 他多数

## 【部屋数の問題】

夫婦共にリモートワークをしている為、別室+子ども部屋となると3部屋以上が必要。  
しかし、3LDKは都内では高い又はあまり市場に出てこない。

## 【住み替えの問題】

夫婦の仕事の場所や教育の観点。また世帯の大きさの変化から、住み替えをしやすい賃貸で住んでいる。  
共働き子育て世帯は、引っ越しを多くするので、買い替え・住み替えがしやすい仕組みが欲しい。

## 【老後は持ち家が良いが、ローンは難しい問題】

住み替えがしやすいので、賃貸で生活しているが、定年後には持ち家ではないと厳しいと感じている。  
ただ、年齢が増すごとにローンが厳しくなるので、どのような形で老後の住まいを確保するのか悩んでいる。



・都内の3LDKなど、共働き育児家庭向けの物件が、高いとかそれ以前に市場に出てきません（投資対象になっているand/orそもそも供給が少ない。例としてうちの周りの新築マンションはほぼ投資用のワンルーム）。建築・取得に、子育て優遇となるような何らかの規制を課しても良いと思いました。

（共働き子育て家庭）

・子どもがいなくなったら夫婦で大きい家に住むのは不要だし、ライフスタイルに合わせて家を住み替えるっていう形が良い。結局家を買っても子どもたちが巣立って老夫婦でそこに住んで、老朽化した後は誰も住まなくなる。老夫婦が住んでいる一軒家と子育て世帯で大きい家に住みたい人のマッチングとかあったらいいなと思いました。（共働き子育て家庭・3人子ども）



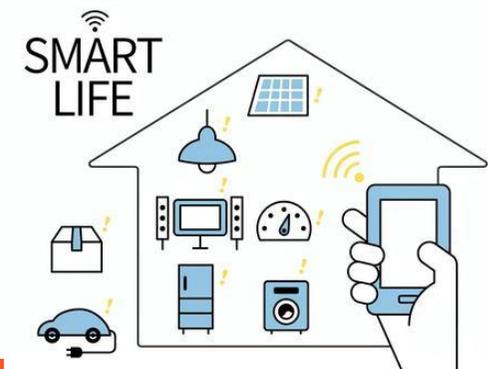
・若い世代はもちろんのこと **高齢化世帯も見守り機能とか 防犯とか防災とかIT化が進むと良い**。オンライン 診療とか自宅から簡単にできれば病院の混雑しないと思う。（共働き子育て家庭・3人子ども）

・ **スマートホーム化は子育てにも少子高齢化にも重要な要素**。  
ライフスタイルに合わせた賃貸がベースになってくると、元の物件からスマート化を想定できていることが重要だと思います。  
**グローバルで見ると、スマートホームはヘルステック、エイジテックなど様々なテクノロジーと接続しています。**

Samsungはかなり前に進んでおり、家とヘルスケアと遠隔医療のソリューションも出ています。

日本も世界と同じ課題が多いにも関わらず業界を跨ぐ形でのテクノロジーを活用しきれてないのがもどかしい。このままだと日本企業からこういう統合ソリューションが出る見込みがなくなってしまうので、もっと **業界として投資が向くような流れを作りたいと思っています。**

（共働き子育て家庭・2人子ども）



・少し前に義母が施設に移り、息子が家を出てから掃除の度に無駄に広い...けど、B&Bには向かない作りなことを痛感してます。ライフステージに合わせて気軽に住み替え出来ると良いなと思います。（共働き子育て家庭・2人子ども）

・シングルの選択肢でシェアハウスは定着していますが、むしろ妊娠期から未就学子育て期間こそシェア暮らしは向いていると思います。拡張家族的コミュニティ、長屋までいかずともコモンスペースや中庭を共有した住環境はまさに共助です。

・おひとり様の老後の住まいについて11年くらい考えておりました、理想形として「おひとり様シニア女性達が寄り集まって暮らせる賃貸マンション」があれば良いなあ、でもどこ探してもおひとり様の高齢者に賃貸は貸してもらえないようなので、大阪で「大人の女子寮」を創りました（独身）

・新興住宅地ですが、一気に開発されて、一気に高齢化していくんだろなと思います。一つの区域の中で、段階的に（一丁目と二丁目で世代がズレるみたいな）世代交代していけるのが理想かと。マンションと戸建て開発地が程よく同じコミュニティになるのが良いのでは。（共働き子育て家庭・3人子ども）



・マンションの8～9割が3LDK、4人家族なら子ども部屋を取れるけど家族が5人になると1人1部屋取ってあげられない。

**家族として最大面積が必要な時に、地価の高い東京で不動産を取得しないといけないのは他への投資（例えば家電への投資、ベビーシッターへの投資）を抑制してしまう。**

洗濯は全て乾燥機、週1土曜午前のシッター依頼で親の休み（仕事だけでなく家事育児からも）を作るなどできる（余談だが我が家ではこれを徹底してから欲しかった第三子を妊娠できた）。

鍵が自動で閉まるオートロックはスマートロックで後付けできる。末子が0～3歳までは中食の利用が楽。全部がんばるソリューションで乗り切ってしまい、あと一人欲しいという人は多いのに皆無理を重ねているから子ども2人までになってしまう。

**第三子を妊娠したら公営の5LDKに破格の値段で22年住めるとかにしてほしい。**

旅行も4人まで想定のホテルや宿が多く気軽には行けなくなった。エアビーを探したり、ヘッドカウントでない宿を探したりしている。そこも補助がほしい。今はそれがなくて**有形無形の形で第三子を持つのを難しくさせている**と思う。（共働き子育て家庭・3人子ども）



・我が家のように子ども3人、性別違いだと、最低でも4Lは必要なのですが、まあそもそも作りがたいです。  
共働きの場合、職住近接か大事だと思いますが、都内でそれを叶えようとすると、相当経済的ハードルが上がります。

そもそも土地が狭い日本なので、仕方ない部分もありますが、子どもが3人以上いるとなった途端に、さまざまなものの「通常」から外れているのだな...と感じることが多いです(この話とは関係ないですが、ファミレスの席とかもそうだし、旅行の部屋もそう)  
(共働き子育て家庭・3人子ども)

・街やマンションの単位で見た時に、どう新陳代謝を促進するかだなと思うので、住宅価格が下がって、人生のフェーズや家族の形に合わせて住み替えられるといいなと思います。子育て世帯が集まるマンションは、その時は便利ですが、20年後はどう...? という感覚もあります。

(共働き子育て家庭・3人子ども)

・遊び場がなくなっている点や、不審者への対応もあり、マンションなどの中や近くに遊び場や中庭などの施設があると、やはり安心感がある。

・子育て後の、超高齢社会を想定し、75歳以上で年金以外の収入が乏しい場合や年金自体満額受給出来ないとするなら、どこかのタイミングで賃貸から持ち家に移行しないと、経済的に厳しいとされます。

年金だけで賃貸生活は出来ないとするなら、補填は生活困窮者自立支援制度か生活保護制度の利用が必須になってしまうと考えてます。

政府がすべきなのは、子育て世代の3LDK~4LDKの格安賃貸住宅から、子どもが独立後の小さな分譲住宅に住み替えやすくする制度が必要ではないかと思えます。

（共働き子育て家庭・2人子ども・行政職員）





自分らしいワーク&ライフ  
を実現できる  
環境づくりへ

